

手術制限に関するアンケート調査結果（2020年4月27日から5月3日回答分）

日本麻酔科学会 COVID-19 対策特別委員会は2020年4月27-5月3日に全国の認定病院に対してアンケートを行いました。

質問内容

”本調査は毎週の日本全国の手術件数と手術室制限状況（COVID-19 患者専用部屋やICU化された手術室の数）を調査することにより、麻酔科医・手術室のワークロード現状を調査することにあります。

都道府県名だけの入力ですので、施設の特定がされることはありません。ワークロードの減少、増加を把握することで、COVID-19による手術施行への影響や回復程度を類推することが可能になります。

さらには、麻酔科医の配置などに対する要望にも対応していきたいと思っておりますので、週に一度の定期的入力をお願いいたします。”

結果

1415の認定病院のうち648施設から回答がありました。施設合計の手術室数は4544室、そのうち108室(2.4%)はCOVID-19専用の手術室として準備されていました。この割合は前回(2.2%)とほとんど変わっていません。今回は何らかの理由で制限されている手術室数が420室で全体の約10%でした。全体として調査期間に32840件の手術が行われ、この数字は昨年度の平均週手術件数と比較すると79.2%で前回の83.7%より4.5ポイント減少していました。前年度比の実数では前回と同様に、東京都62.7%、神奈川県75.5%、兵庫県71.1%と特別警戒都道府県で少ない傾向ですが(図)、前週と比べての減少率は山形県(-48.4%)、香川県(-28.2%)、沖縄県(-27.8%)などで大きい傾向でした。

今回の本アンケートは全例調査ではありませんので、回答された施設の現状であり、必ずしも現状の全てを表しているものではありません。日本麻酔科学会 COVID-19 対策特別チーム本調査を毎週継続して行い、報告していきます。

図 4月4週、5週の手術件数前年度比

